

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2005-504517 (P2005-504517A)

【公表日】平成 17 年 2 月 17 日 (2005.2.17)

【年通号数】公開・登録公報 2005-007

【出願番号】特願 2002-592353 (P2002-592353)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 31/375 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/04 (2006.01)

C 0 7 K 16/18 (2006.01)

C 0 7 K 16/46 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 7/00 (2006.01)

C 1 2 P 21/08 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

A 6 1 K 51/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/375

A 6 1 K 39/395 C

A 6 1 K 39/395 E

A 6 1 K 39/395 L

A 6 1 K 39/395 T

A 6 1 K 47/48

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/04

C 0 7 K 16/18

C 0 7 K 16/46

C 0 7 K 19/00

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 7/00

C 1 2 P 21/08

C 1 2 N 5/00 B

C 1 2 N 5/00 C

A 6 1 K 43/00

A 6 1 K 49/02 A

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 5 月 16 日 (2005.5.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配列番号 1 に示すアミノ酸配列の特徴を有する重鎖可変領域、またはそのフラグメント、対立遺伝子変種、機能的変種、糖化変種、融合分子もしくは化学的誘導体を含む抗体分子。

【請求項 2】

前記重鎖可変領域が、配列番号 1 のアミノ酸配列の特徴を有するアミノ酸から成る抗体分子。

【請求項 3】

配列番号 2 に示すアミノ酸配列の特徴を有する軽鎖可変領域、またはそのフラグメント、対立遺伝子変種、機能的変種、糖化変種、融合分子もしくは化学的誘導体を含む抗体分子。

【請求項 4】

前記軽鎖可変領域が、配列番号 2 のアミノ酸配列の特徴を有するアミノ酸から成る抗体分子。

【請求項 5】

配列番号 3 に示すアミノ酸配列の特徴を有する軽鎖可変領域、またはそのフラグメント、対立遺伝子変種、機能的変種、糖化変種、融合分子もしくは化学的誘導体を含む抗体分子。

【請求項 6】

前記軽鎖可変領域が、配列番号 3 のアミノ酸配列の特徴を有するアミノ酸から成る抗体分子。

【請求項 7】

配列番号 4 に示す核酸配列によってコードされる重鎖可変領域、またはそのフラグメント、対立遺伝子変種、機能的変種、縮退核酸コードによる変種、融合分子もしくは化学的誘導体を含む抗体分子。

【請求項 8】

前記重鎖可変領域が配列番号 4 に示す核酸配列によってコードされる抗体分子。

【請求項 9】

配列番号 5 に示す核酸配列によってコードされる軽鎖可変領域、またはそのフラグメント、対立遺伝子変種、機能的変種、縮退核酸コードによる変種、融合分子もしくは化学的誘導体を含む抗体分子。

【請求項 10】

前記軽鎖可変領域が配列番号 5 に示す核酸配列によってコードされる抗体分子。

【請求項 11】

配列番号 6 に示す核酸配列によってコードされる軽鎖可変領域、またはそのフラグメント、対立遺伝子変種、機能的変種、縮退核酸コードによる変種、融合分子もしくは化学的誘導体を含む抗体分子。

【請求項 12】

前記軽鎖可変領域が配列番号 6 に示す核酸配列によってコードされる抗体分子。

【請求項 13】

配列番号 7 に示すアミノ酸配列の特徴を有する重鎖を含み、さらに配列番号 8 に示すアミノ酸配列の特徴を有する軽鎖またはそのフラグメント、対立遺伝子変種、機能的変種、糖化変種、融合分子もしくは化学的誘導体を含む、請求項 1 から 12 のいずれかに記載の抗体分子。

【請求項 14】

配列番号 7 に示すアミノ酸配列の特徴を有する重鎖を含み、さらに配列番号 9 に示すアミノ酸配列の特徴を有する軽鎖またはそのフラグメント、対立遺伝子変種、機能的変種、糖化変種、融合分子もしくは化学的誘導体を含む、請求項 1 から 13 のいずれかに記載の抗体分子。

【請求項 15】

前記抗体タンパク質が治療薬剤と結合される請求項 1 から 14 のいずれかに記載の抗体タンパク質。

【請求項 16】

前記治療薬剤が、放射性同位元素、毒素、類毒素、炎症剤および化学療法剤から成る群から選択される治療薬剤である請求項 15 の抗体タンパク質。

【請求項 17】

前記放射性同位元素が¹⁸⁶レニウム、¹⁸⁸レニウム、¹³¹ヨウ素および⁹⁰イットリウムから成る群から選択される線放出放射性同位元素である、請求項 15 又は 16 に記載の抗体タンパク質。

【請求項 18】

請求項 1 から 17 のいずれかに記載の抗体タンパク質および医薬的に許容できる担体または賦形剤を含む医薬組成物。

【請求項 19】

請求項 1 から 14 のいずれかに記載の抗体タンパク質をコードすることを特徴とする核酸。

【請求項 20】

請求項 19 に記載の核酸を含むことを特徴とするリコンビナント DNA ベクター。

【請求項 21】

請求項 20 に記載のベクターを含むことを特徴とするホスト。

【請求項 22】

以下の工程を含むことを特徴とする請求項 1 から 14 のいずれかに記載の抗体タンパク質の製造方法：請求項 21 に記載のホストを前記ホスト細胞によって前記抗体タンパク質が発現される条件下で培養し、前記抗体タンパク質を単離する。